

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

林原美術館

NEWS

Vol.

9

平成17年4月1日

平成十七年度展覧会の新企画

(財)林原美術館 館長 熊倉 功夫

今年の企画は、ことに盛りだくさんです。まず年度はじめの特別展「アラビアンナイト大博覧会」は、いつもの美術館のイメージと違います。趣旨は、

これらは比較的近年に収集されたもので、ほとんど全てが初公開されるものです。

本展の企画をした西尾哲夫さんの文章をお読み下さい。つづいて企画展は本館だけが所蔵する平家物語の全巻を収録した「平家物語絵巻」の大陳列です。ちょうどNHKの大河ドラマで源義経が活躍しています。義経の源平の合戦でのりりしい姿も、絵巻のなかに登場します。

十一月より茶道具展を開きます。千利休書状をはじめ、当館所蔵の茶道具と池田家の名宝、また特別出品として表千家不審菴所蔵の秀吉より拝領の利休所用具足一式が展示される予定です。

七月から今年度二つめの特別展「彦根藩井伊家の名宝」がはじまります。当館と同様、大大名の道具をまとめて収藏する美術館は全国にいくつかあります。その間で蔵品の相互展示の企画が練られてきました。今回はその成果で、井伊家所蔵の名品がはじめて岡山で展覧されます。そのなかには、桃山時代の風俗画の白眉ともいべき国宝の「彦根屏風」も含まれています。またこの間、当館所蔵の池田家の名宝も、彦根で公開されます。

年がかりまして、平成十八年頃には、源氏物語絵を中心に、新しい視点での展示が企画されています。源氏物語が庶民の間まで受け入れられたのは江戸時代のこと。当時の人びとは、源氏物語を今のわれわれよりも身近に感じていたにちがいありません。

今年度最後の企画展は文人たちの世界を展示します。文人とよばれる教養豊かな人びとは、集まつては酒を飲み茶を楽しみ、興がのれば席中で書を揮毫し画を描きました。彼らがこよなく愛したのが、紙・筆・墨・硯。いわゆる文房四宝です。こうした文人趣味の清雅の楽しみに注目します。

秋には、中国とペルシャの古代陶器を展示します。中国では新石器時代の中期ごろ、表面に彩色をほどこした「彩陶」とよばれる陶器がつくられました。またペルシャでも青釉をほどこした陶器が紀元前から焼かれています。

展覧会の大きな流れを述べましたが、詳しくは、個々の紹介記事をご覧下さい。この他に茶会やワークショップなどでも、皆さまをお迎えしたいと計画しています。



国宝 彦根屏風(紙本金地著色風俗図) (彦根城博物館蔵)

特別展

「アラビアンナイト大博覧会」

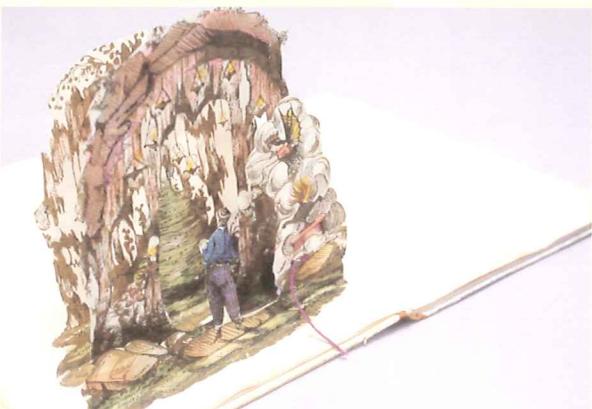
4月9日(土)～6月5日(日)

国立民族学博物館助教授 西尾哲夫

「アラビアンナイト大博覧会」では、千一夜物語の別名でも知られている中東世界の大物語集アラビアンナイトが、フランスで「再発見」されて世界文学へと変貌していった道筋を紹介し、この大物語集が近代の文化に与えた影響について考察します。

アラジン、アリババ、シンンドバッドなどの物語を通して親しまれているアラビアンナイトは、古代インドやイランの古い物語を土台とし、イスラーム文化が黄金時代を迎えたアッバース朝(平安時代にほぼ相当)に原型とされる物語集が作られました。その後、長い年月の間に話の数が増加し、マムルーク朝(室町時代にほぼ相当)のカイロで現在に近い形となつたとされています。

アラビアンナイトは専門の講師によつて伝えられていつたようですが、とともに中東世界ではほとんど忘れられた存在となつていきました。しかし、18世紀にフランス人アントワーヌ・ガランによってルイ14世の宮廷に紹介されると、たちまちのうちにベストセラーとなつてヨーロッパ各国語に翻訳され、市民社会が爛熟する19世紀には、すでに古典文学としての地位を確立していました。



『アラジンと不思議なランプ』のしきけ絵本(19世紀中頃、フランス)

膨張する近代ヨーロッパは、必然的に帝国主義への道を歩むことになり、中東世界にとつては悪夢のような植民地時代が始まります。この時代のヨーロッパは、アラビアンナイトの中に、エロチックでエキゾチックな中東世界という幻想を見ようとした。こうして成立した東方幻想は、正負双方の役割を果たすことになり、近代ヨーロッパに倣つた日本もこのような東方幻想から自由ではなかつたのです。

江戸時代を通じて、彦根藩主であつた井伊家は、常溜間詰格として譜代大名筆頭の格式を誇りました。儀礼を重んじる江戸時代にあつて、大名家はそれぞれの家の格によつて様々な道具を揃えました。井伊家も、代々の藩主が三十五万石の雄藩にふさわしい道具類を集積してきました。

幕末から明治へかけての社会情勢の激変の波にさらされ、他の大名家では伝来品が売りたてられるなど、散逸の憂き目にあうなかで、井伊家の伝来品はよく守り伝えられてきました。

しかしながら、大正十二年の関東大震災では、東京に本廷を構えていた井伊家も例外ではなく、大きな被害にあいました。わずかに難をまぬがれたのが、

特別展

「彦根藩井伊家の名宝」

7月24日(日)～8月21日(日)

国宝「彦根屏風」と、「大名物宮王肩衝茶入」など数点の美術工芸品と、十三代井伊直弼に関する一群の古文書です。



彦根市指定文化財
朱漆塗燻韋縫延腰取二枚胴具足(二代直孝所用)
(彦根城博物館蔵)

今回の展覧会は、国宝「彦根屏風」が、彦根を離れた場所でのはじめての展示となります。また、桜田事変で有名な十三代直弼にまつわるお茶道具などもご紹介し、その人となりにも触れます。

(なお、「彦根屏風」の展示期間は8月8日(月)～8月21日(日)です。)

が、大変貴重な資料です。

家の伝来品は、当時彦根に置かれていたもののみで、本来の伝来品の数からするとごく一部ということになりますが、大変貴重な資料です。

幕末から明治へかけての社会情勢の激変の波にさらされ、他の大名家では伝来品が売りたてられるなど、散逸の憂き目にあうなかで、井伊家の伝来品はよく守り伝えられてきました。

企画展

「源義経と平家の合戦 —平家物語絵巻の世界—」

6月12日(日)～7月17日(日)



『平家物語絵巻』卷第九下 「坂落」

当館が所蔵する『平家物語絵巻』(全三十六巻、越前松平家伝来)は、欠落のない本邦唯一の作品として知られています。江戸時代に土佐左助によって描かれたこの絵巻は、平氏の興亡盛衰を中心に、約六十年に及ぶ激動の時代を鮮やかに再現しています。今回は特に、源義経と平家の合戦が描かれた場面を中心に展示いたします。

中国の新石器時代に現れた文様を描いた土器のことを彩陶といい、その歴史は六千年以上昔にさかのぼります。彩陶には幾何学文様が施され、人の頭をかたどった壺は、その形状もユニークです。この展覧会ではペルシアの古代陶器もあわせて展示し、古代の陶器の世界をご招待いたします。



彩陶人頭壺 (半山馬廠類型)

企画展

「中国・ペルシャの古代の陶器」

9月25日(日)～10月30日(日)

中国の新石器時代に現れた文様を描いた土器のことを彩陶といい、その歴史は六千年以上昔にさかのぼります。彩陶には幾何学文様が施され、人の頭をかたどった壺は、その形状もユニークです。この展覧会ではペルシアの古代陶器もあわせて展示し、古代の陶器の世界をご招待いたします。



千利休自筆書状

企画展

「書画と文房具」

平成18年2月19日(日)～3月26日(日)

中国や日本の知識人・文人にとって「書」と「画」は重要な教養でした。古筆切を集めた古筆手鑑にも見られるように、日本人は「文字」文化を大切に継承してきたことがわかります。この展覧会では、当館所蔵の掛軸・巻子、帖などの「書画」をはじめ、文人たちが愛した文房具の世界をご紹介いたします。



重要美術品 後奈良天皇宸翰懐紙



平安時代、紫式部によつて書かれた「源氏物語」は、現代に至るまで多くの人々に愛され続け、絵画・歌留多・調度品など多くの作品のテーマとして用いられています。特に江戸時代には、源氏物語を題材とした屏風が数多く作られ、さらに町人まで広がり、様々な道具や衣装にも使われました。今回は当館所蔵の源氏物語屏風を中心、江戸時代の「源氏物語」をご覧いただきたいと思います。

企画展

「館蔵 茶の湯道具と池田家の名宝」

11月6日(日)～12月4日(日)

企画展

「江戸の人々が見た源氏物語」

平成18年1月4日(水)～2月12日(日)

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

第三回ワークショップ「銘切り」「小刀製作」

昨年開催いたしました当館ワークショップ「銘切り」と「小刀製作」は、おかげ様で多くの方に参加いただき、ご好評のうちに終了しました。そのため引き続き今年も開催することになりました。「銘切り」は大野義光刀匠、「小刀製作」は大野刀匠のお弟子さんによる高野行光刀匠にご指導していただきます。郷土の育んだ備前刀の文化や技術を体験するとともに、日本が世界に誇る伝統工芸品である日本刀に対する理解を、一層深めていただければと考えています。

なお、今回のワークショップは、人數の都合上、原則として当館友の会会員の方を優先とさせていただきます。

「銘切り」(小学校高学年～中学生と保護者の方対象)

大野義光刀匠による刀剣製作行程の説明と「銘切り」の指導。

日 時 平成17年11月26日(土)

10時～16時

定 員 10組20名(要予約)

参加費 無料

*銘を入れた文鎮(一人一本)をお持ち帰りいただけます。

講 師 高野行光刀匠
日 時 平成17年11月23日(水)・27日(日)
定 員 各5名(要予約)
参加費 2万円



「小刀製作」作業前の小刀と完成品



「銘切り」作業風景

平成17年11月19日(土)・20日(日)

お茶会のご案内

林原美術館の庭に建つ茶室竹明庵は、このたび屋根の修理が完成し、面目を新しました。つきましては、館長が亭主役となつて、皆さまに茶室においてまいりたいと思います。お出しできましが、いずれ蔵品も用いて、茶道の道具組みが計画しています。今回は茶道具展にあわせて開きますので、館蔵品をお出しできませんが、いかがなさいます。

なお、時間等は後日ご案内いたします。

第五回 美術館周遊の旅「香川 美術館巡りの旅」

平成17年6月18日(土)



外観
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

定 員 / 42名(要予約)	8,500円
参加費 / 友の会会員	9,000円

今回の美術館周遊の旅では、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、イサム・ノグチ庭園美術館、香川県歴史博物館を訪れます。香川を代表する二人の芸術家の作品に触るとともに、高松松平家伝来の美術品も鑑賞できます。また往路はフェリーで瀬戸内海を渡ります。

講 師 / 西尾哲夫氏(国立民族学博物館助教授)
定 員 / 120名(要予約)

会 場 / 岡山県立図書館 2F 多目的ホール
参加費 / 友の会会員 300円 一般 500円

演題 「アラビアンナイトと日本人の中東幻想」

平成17年5月7日(土) 13時30分～15時

日本にとって今日ほど、イスラム文明との対話が重要な時代ではないでしょうか。アラビアンナイトを窓口に、日本と中東世界の文化交流について江戸時代までさかのぼって考えてみましょう。

第三十八回 林原美術館美術講座

講 師 / 熊倉功夫(当館館長) 定員 / 120名(要予約)

会 場 / 岡山県立図書館 2F 多目的ホール
参加費 / 友の会会員 300円 一般 500円

演題 「日本人と茶の湯」

11月12日(土) 13時30分～15時

喫茶の習慣は世界中であります。茶を飲むという行為から、そのための建築をつくり、そのための器物を創作し、作法を考案したのは日本だけです。日本独自の文化である茶の湯とは何か、お話しします。

●「友の会」募集のご案内●

林原美術館では、平成十七年度の美術館「友の会」の会員を募集しています。会員の方は、美術館の企画展が会員証にて無料で何度でもご観覧いただけます。また、特別展でご同伴の方一名様も無料となります。また、特別展では入館料が300円引きとなります。この他、本年度より展覧会スタンプラリーや会員限定の茶会(熊倉館長亭主)を計画しています。従来からの館主催の各種イベントへの会員料金にてのご参加等、会員の方々にはいち早く情報を届けします。この機会に是非ご入会ください。

個人会員 一年 三、〇〇〇円(新規入会)
二、七〇〇円(入会継続)

法人会員 一年 三〇、〇〇〇円(新規入会)
二七、〇〇〇円(入会継続)
三年 七〇、〇〇〇円

有効期限
一年会員 平成17年4月1日～平成18年3月31日
三年会員 平成17年4月1日～平成20年3月31日
(TEL) 086-223-11733

直接ご来館いただけない方には便利な口座振替もあります。お気軽に美術館スタッフまでお尋ねください。

後記 編集

美術館ニュースを発行し始めて今年度で5年目となりました。今年度も各

特別展・企画展のほかに、美術館周遊の旅・特別講演会・美術講座・ワークショップを企画しています。また、秋にはこれらの各催しを是非お楽しみください。皆様のご来館をお待ちいたしております。(D)

当館のお茶室を使ってのお茶会も予定しています。

これからのお茶室を使つてのお茶会も予定しています。

TEL ○八六一二二三一七三三

〒700-0823 岡山市丸之内一七七五

財団法人 林原美術館